

日本学習社会学会

Japanese Association for the Study of Learning Society

第 10 回大会 プログラム

2013 年 8 月 31 日 (土)・9 月 1 日 (日)

日本学習社会学会 第 10 回大会実行委員会

関西大学

日本学習社会学会第10回大会開催にあたって

日本学習社会学会第10回大会
大会実行委員長
関西大学教授 赤尾勝己

会員の皆様におかれましては益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。このたび日本学習社会学会第10回大会をお引き受けしました関西大学の赤尾勝己です。

会場となります関西大学は、1886年11月に関西初の法律学校として設立された関西法律学校を前身とし、現在13の学部と14の大学院研究科（3専門職大学院含む）、1つの別科を有し、学部学生28,000人、大学院生等2,000人を擁する総合大学です。2013年度には政策創造学部国際アジア法政策学科を設置するなど、さらなる発展に向けた新構想を次々と発表し、常に躍動する活気のある大学として邁進しています。

本大会の特色は大きく二つあります。第1点は、学会設立10年を迎えた記念シンポジウム「日本学習社会学会の使命（存在理由）と課題（学術性と実践性）を考える」の開催です。2004年4月に本学会が設立されて、今大会はちょうど10回目を迎えます。これまでの10年間の歴史を振り返り、新たな研究を構想していくうえで貴重な機会となることが期待されます。第2点は、「学習を社会的に研究する—「学習社会学」の提案—」というテーマの下での公開シンポジウムの開催です。これらのシンポジウムが日本学習社会学会の歴史に新たな一歩を刻み、今後を方向づける大会になることを祈念しております。

以上2つのシンポジウムと、課題研究発表さらには会員の皆様に積極的にご応募いただきました自由研究発表、すべてにおいて有為な研究発表が展開されものと信じております。

なお、本大会の準備に関しましては、本学の若槻健先生に陣頭指揮をお願いし、さらに近畿地区の他大学の先生方等にもご協力をいただいております。その意味では、近畿地区主催の大会と言えるかもしれません。

会員の皆様におかれましては、本大会を新たな研究を生み出す契機にさせていただければと存じます。是非、懇親会も含めまして多くの会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

2013年盛夏

日本学習社会学会 第10回大会

1. 期日 2013年8月31日(土)・9月1日(日)

2. 会場 関西大学千里山キャンパス 100周年記念会館

(阪急電鉄千里線「関大前」駅南口より、大学行エスカレーター降りてすぐ
〒大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

Tel 066368-1121 (大代表)

06-6368-1111の後、音声ガイダンスに従い5157 (若槻研究室)

3. 参加費 (1) 大会参加費 3,000円 (2) 懇親会費 4,000円

※非会員の方も、参加費をお支払いの上で、臨時会員としてご参加いただけます。なお、8月31日の公開シンポジウムにつきましては、無料にてご入場いただけます。

4. 大会プログラム

8月31日(土)

11:00 ～ 12:50	12:00 ～	13:00 ～14:30	14:40 ～15:40	15:50 ～18:20	18:30 ～20:00
理事会 (第1 特別会 議室)	受付	自由研究発表Ⅰ (第1会議室)	総会 (ホール 1・2)	公開シンポジウ ム(ホール1・2)	懇親会(レスト ラン紫紺)
		自由研究発表Ⅱ (第2会議室)			
		自由研究発表Ⅲ (第3会議室)			
		自由研究発表Ⅳ (第4会議室)			

9月1日(日)のスケジュール

9:30 ～	10:00～12:00	12:00 ～13:00	13:00 ～16:00
受付	10周年記念シンポジウム (ホール1・2)	昼食	課題研究発表Ⅰ(第 1会議室)
			課題研究発表Ⅱ(第 2会議室)

5. 会員控室 第5会議室

6. 大会本部 第6会議室

7. 昼食／宿泊 (1) 昼食 会場内のレストラン紫紺が、両日とも営業しておりますので、ご利用ください。また会場から5分ほど歩きますと、学外の飲食店、コンビニエンスストア等開いております。

(2) 宿泊 宿泊施設等は、各自ご予約ください。

8. 発表 (1) 発表時間 個人研究発表 発表 20 分・質疑 5 分
共同研究発表 発表 30 分・質疑 10 分

※共同研究発表の口頭発表者が1名の場合、個人研究発表と同様の時間とします。

(2) 発表機材 パソコン (windows)・プロジェクター・接続用ケーブルの使用が可能です。(パソコン本体は各自ご持参下さい。)

(3) 発表資格 本学会員を発表資格者とします。共同研究者にも同様の資格が求められます。

9. 大会実行委員会

委員長 赤尾 勝己 (関西大学)

事務局長 若槻 健 (関西大学)

実行委員 臼井 智美 (大阪教育大学)

実行委員 柏木 智子 (大阪国際大学)

実行委員 大野 順子 (関西大学大学院)

事務局

関西大学 文学部 教育文化専修 若槻健研究室内
日本学習社会学会第10回大会実行委員会事務局

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

TEL 06-6368-1121 (大代表)

06-6368-1111 の後、音声ガイダンスに従い 5157 (若槻研究室)

E-mail : lskansai.u@gmail.com

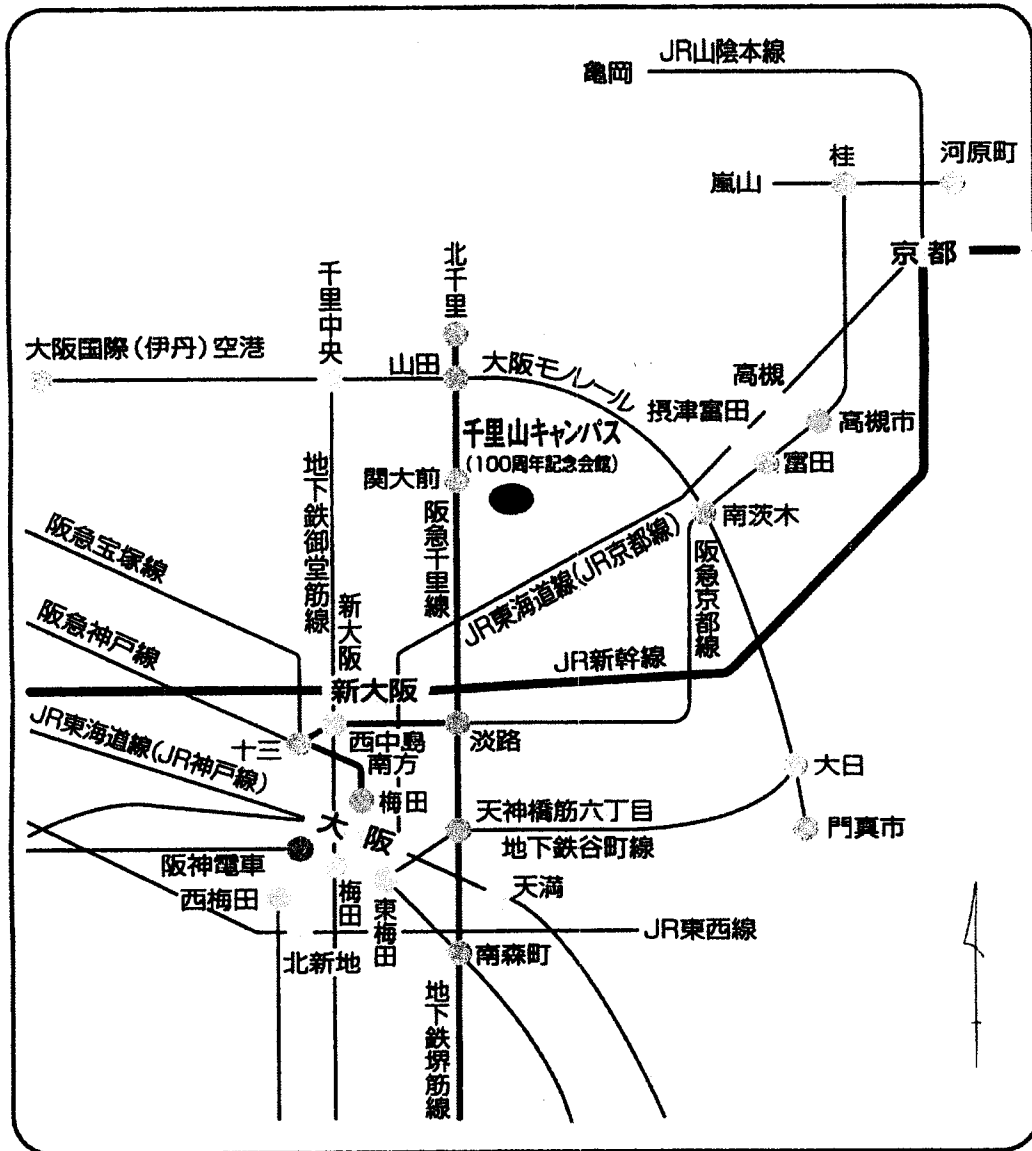
大会当日の連絡先

TEL 090-3943-1616 (若槻)

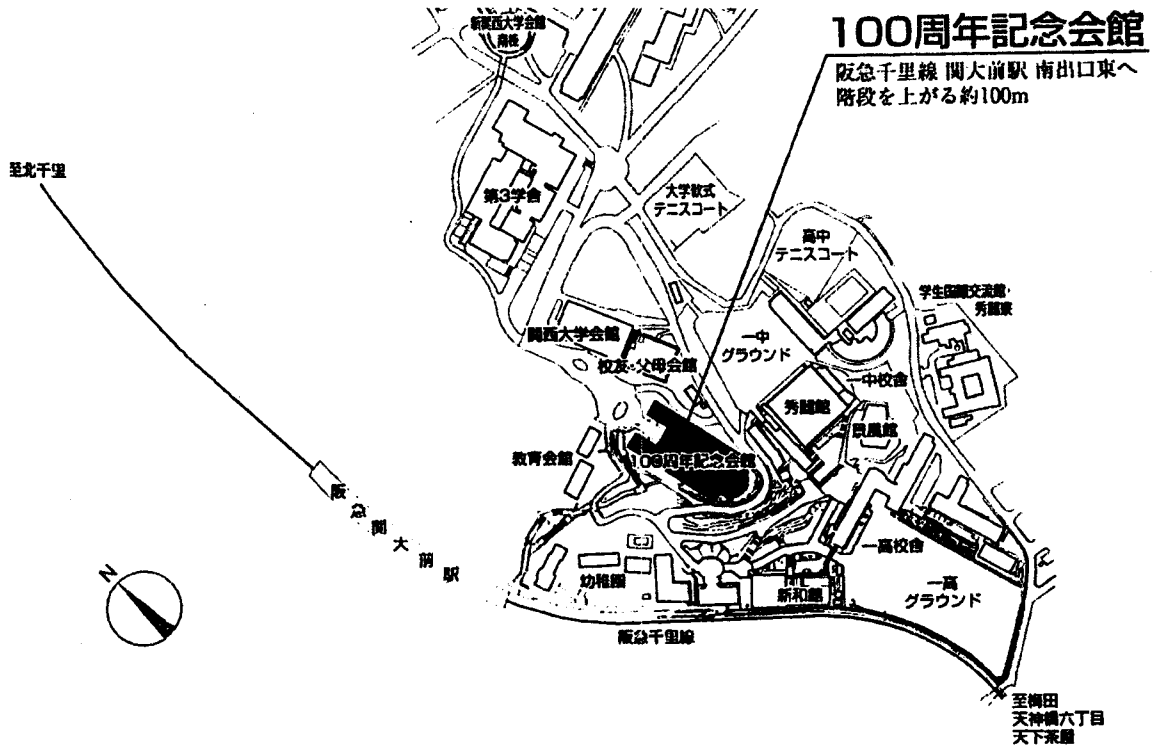
関西大学 100周年記念会館への交通案内

関西大学千里山キャンパスの最寄り駅は、阪急電鉄千里線「関大前駅」となります。駅南口から大学行きのエスカレーター（8：30～18：30）をご利用いただき、降りてすぐ右側が会場の100周年記念会館になります。2日目は、エスカレーターが稼働しませんので、エスカレーター横の階段をご利用ください。

■ 交通案内図

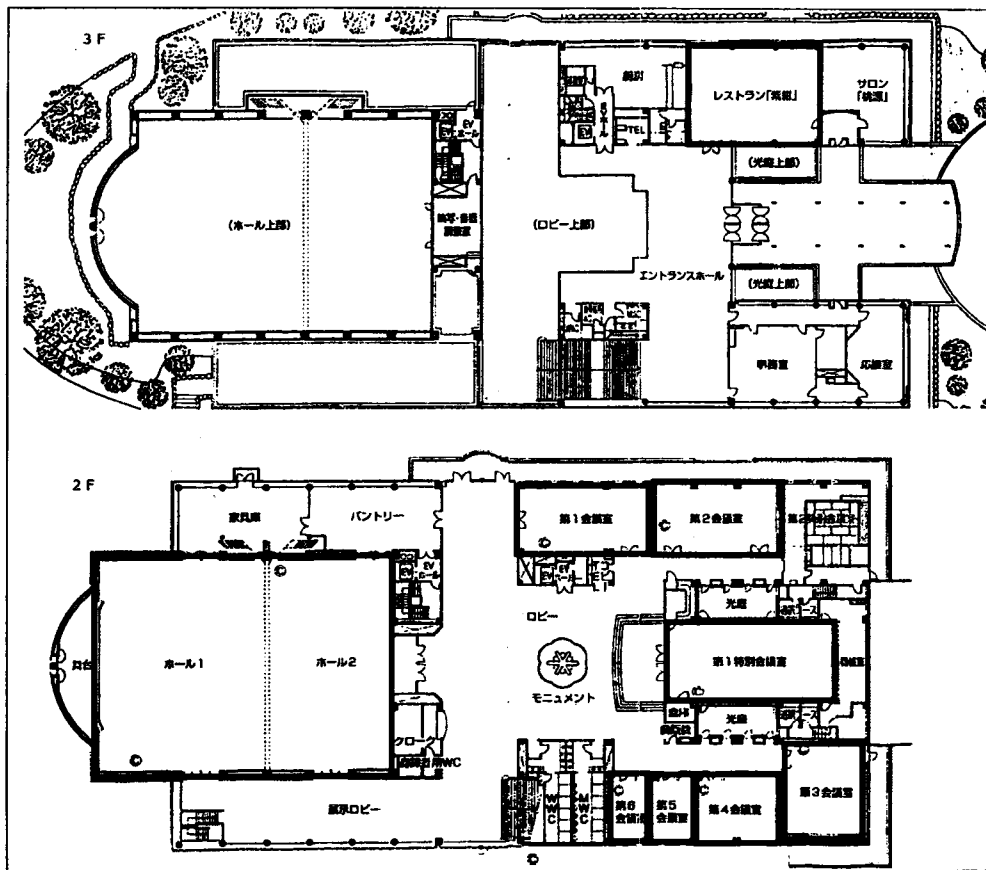


- 《交通》
- ①阪急電車梅田駅から：「北千里ゆき」→関大前駅（30分）
 - ②JR新大阪駅から：地下鉄「天王寺・なかみずゆき」→次駅の西中島南方駅下車、高架下の阪急電車南方駅「北千里ゆき」に乗換え→関大前駅（約30分）
 - ③大阪空港から：大阪モノレール「門真ゆき」→山田駅下車、阪急電車山田駅「梅田・天下茶屋ゆき」に乗換え→関大前駅（約30分）
 - ④タクシー利用：「JR新大阪駅」→関西大学（約20分）
：「大阪空港」→関西大学（約30分）



100周年記念会館案内図

※入口は、3Fになります。



自由研究発表 I

2F 第1会議室

8月31日(土) 13:00~14:30

司会 平井貴美代 (山梨大学)

13:00~13:40

公立小学校女性校長の実態とキャリア形成に関する調査研究

- 河合早苗 (岐阜女子大学大学院生)
- 安井智恵 (岐阜女子大学大学院)

13:40~14:20

専門職教育者にとっての InterProfessional Education
—その意味と可能性

- 渡邊洋子 (京都大学)
- 佐伯知子 (大阪総合保育大学)
- 柴原真知子 (京都大学医学教育推進センター)

14:20~14:30

全体討議

自由研究発表Ⅱ

2F 第2会議室

8月31日(土) 13:00~14:30

司会 鈴木三平(常葉大学)

13:00~13:25

移民・移住女性のシティズンシップ形成への学び
—地域社会へのかかわりを通して—

大野順子(関西大学大学院)

13:25~14:05

国際交流プログラムを通じた学士力の育成
—カンボジアにおけるボランティア活動を事例として—

鈴木光男(東京未来大学)

○田中真奈美(東京未来大学)

○金塚基(東京未来大学)

14:05~14:30

全体討議

自由研究発表Ⅲ

2F 第3会議室

8月31日(土) 13:00~14:30

司会 浅野秀重(金沢大学)

13:00~13:25

教師の資質能力向上と職場—教員評価制度の視座から—

一之瀬敦幾(静岡県立小笠高等学校/静岡大学大学院)

13:25~13:50

学校図書館/司書の教育実践

滝口克典(東北芸術工科大学非常勤)

13:50~14:15

高校教育研究 19 高等学校工業系学科から工科系大学への進学状況(1)

永田進(日本大学)

14:15~14:30

全体討議

自由研究発表Ⅳ

2F 第4会議室

8月31日(土) 13:00~14:30

司会 堀井啓幸(山梨県立大学)

13:00~13:25

滋賀県教育委員会の「地域の力を学校へ推進事業」の成功要因
—相互互恵関係の企業・団体の学校支援事業の成功要因の一般化に関する考察—

安部耕作(近江八幡市役所)

13:25~13:50

学び合う実践共同体の形成—1940年代の公民館運動と現在

氏原茂将(川口市立映像・情報メディアセンター メディアセブン)

13:50~14:15

国鉄の教育制度—主として大学課程について—

長谷川晴道(常葉大学大学院)

14:15~14:30

全体討議

総会

2F ホール1・2

8月31日(土) 14:40~15:40

予定議題

1. 2012年度の活動報告
2. 会計報告
3. 予算案提出
4. 2013年度活動計画
5. 理事選挙
6. 次期大会校について

その他

公開シンポジウム

2F ホール1・2

8月31日(土) 15:50~18:20

学習を社会的に研究する—「学習社会学」の提案—

日本の生涯学習研究では、これまで人間の学習を教育学的・心理学的観点から研究されその蓄積がなされてきたが、本シンポジウムでは、学習を社会的な観点から研究していくことについてのアイデアを、欧米および国内の研究蓄積から提案していこうとするものである。日本学習社会学会は、広く生涯学習社会について研究する学会であるが、これから人間の学習を社会的に研究する「学習社会学」(sociology of learning)を構想する段階が到来しているようにも見える。これは、学校教育における子どもたちの学習を社会的に研究することと、成人の学習を社会的に研究することとを両輪としている。ここでは学習社会学の大枠について関西大学の赤尾勝己氏が、学校教育における学習の社会学を大阪大学の志水宏吉氏が、成人学習の社会学を京都大学の渡邊洋子氏が担当する。

シンポジスト

赤尾勝己(関西大学)「学習社会学の構想」

志水宏吉(大阪大学)「教育社会学の立場から」

渡邊洋子(京都大学)「成人教育学の立場から」

司会

若槻健(関西大学)

※ 公開シンポジウムは、会員はもちろん、会員以外の方でも無料で参加できます。皆さまお誘い合わせの上、ご参加ください。

懇親会

3F レストラン紫紺

8月31日(土) 18:30~20:30

会費 4,000円

当日の参加も受け付けますので、皆さまお誘いあわせの上、ご参加ください。

日本学習社会学会設立 10 周年記念シンポジウム

2F ホール 1・2

9 月 1 日（日）10：00～12：00

日本学習社会学会の使命（存在理由）と

課題（学術性と実践性）を考える

趣旨：

2004 年、「学会設立趣意書」を公表し、本学会の理念を高らかに宣言した。ここに本学会はその産声を上げた。「趣意書」の冒頭でわたしたちの覚悟を次のように述べている。

国家や組織の原理が人間と社会の中に深く浸透し、人間はこれらにより統制、管理され、またこの原理の実現と徹底を図る状況が進展した。他方で豊かで成熟した社会、しかも求心力を失った社会の中で人間は個人化、個別化し、さらには孤立化が余儀なくされてきた。そうした人間の姿とかたちが 20 世紀社会の特徴である。新しい世紀にあつては、自らをそれらの呪縛から解放し、自律（自立）的な人間を目指すとともに、人間が生きることの実感とリアリティをつくり出し、発展させるにふさわしい環境（社会）を構築することが求められている。その方向は、自律（自立）的な人間であることを志向しつつ、同時に共生を人間の行動原理とした社会を構築することであると考え。こうした課題を解明し、解決するにふさわしい学習の在り方を問い、学習のかたちを構築することに寄与する研究と実践、そしてそれらの交流の場が今必要になっている。ここで意味する学習とは、問いという人間の根本的能力をベースに営む、学習、教育、文化の創造的活動の総体を示す概念である。

その学会が今年 10 年を重ねることになった。10 年の間に社会も大きく変化した。本学会は、3. 11 東日本大震災が生きることと学ぶことの意義を大きく変え、また変わらざるを得ないことを肌で感じてきた。自分のために学びがあるという次元を越えて、「関係的自律人・自立人」として他者の存在や営みを視野に置いた学びがあること、また必要であり大切であることを多くの人たちが感じ始めたを受けとめた。他者との共生・共存、他者への貢献としての学びの意義を感じるようになってきたのではないかと考える。

折しも昨年 10 月、子どもや女性の教育を受ける権利を訴え、武装勢力に銃撃され、瀕死の重傷を負ったパキスタン女性マララ・ユスフザイさんがニューヨーク国連本部で

16歳の誕生日に当たる7月12日、国連が題した「マララ・デー」に行った演説で訴えたものは本学会が解明を求め、実現を求めてきたテーマと同一の地平にあるものである。マララさんは今日の誕生日は私の個人の日ではなく、それは教育を受ける権利を求め、その実現を願うすべての子どもたち、女性の日であると述べ、教育と学習が個人の利益や関心を超えたものであるとともに、それが持続可能な平和な社会をつくるための最も強い武器、方法であると強調した。

3. 11とマララさんの演説は、わたしたち人間や社会にとっての教育や学習の意味を改めて問うている。本学会がこうした課題にどう向き合い、いかなるこたえを出し得るかが問われていると言える。

本シンポジウムは、こうした問いにどう対応するかを視野に入れながら、これからの本学会の課題、役割を考える機会となればと考える。

日本学習社会学会 会長 小島 弘道

○基調報告

小島弘道（龍谷大学）

○提案

篠原清昭（研究推進委員長・岐阜大学）・・・研究方法論の観点から

福田誠治（都留文科大学）・・・教育のグローバリズムと国際的教育行政管理を教育の商品化ならびに公教育の破壊として把握する観点から

佐久間邦友（兵庫教育大学）・・・学習塾研究の観点から

古田雄一（筑波大学大学院・日本学術振興会特別研究員）・・・若手研究者からの期待

前田耕司（早稲田大学）・・・先住民族のエンパワーメントと学習権保障の観点から

三輪建二（年報編集委員長・お茶の水女子大学）・・・学会にふさわしい研究論文のあり方という観点から

○コメンテータ 川野辺 敏（前会長・星槎大学）

○司会・進行 岩崎正吾（副会長・早稲田大学）

課題研究 I

2F 第 1 会議室

9 月 1 日 (日) 13 : 00 ~ 16 : 00

学校と地域の関係を問いなおす

本課題研究は、「新しい公共空間の場における学習社会づくりの理論と方法の検討」を共通テーマに、2つの班が2年間にわたって検討してきた。学校経営の領域においては、学校教育の統治構造の揺らぎについて、主として学校経営への保護者・住民参加の視点から国内外の状況を踏まえながら、2年間にわたり検討を加えてきた。本年度は最終年度として、現段階における「学校と地域の関係」を、再度、問い直したいと考える。

理由の第一は、学校教育の統治構造の揺らぎといった場合、それは具体的にはどのような場面で現れているのか、それは新しい公共空間の場と言えるほどの影響を及ぼしているのか、換言すれば、われわれ研究者は何をもって統治構造の揺らぎと言っているのか、そこにはどのような可能性と陥穽が秘められているのかを再吟味する必要があると考えたからである。首長部局と教育委員会、学校と学校運営協議会・学校評議員、PTA、福祉関係組織等のステークホルダーの相互関係を再整理しておくことは重要な課題であろう。

第二に、学校と地域の関係といった場合、現在、他の研究領域（社会学、政治学、行政学等）で注目されているソーシャルキャピタル（社会関係資本）の議論は無視できない状況にある。経済資本や文化資本と並んで、この概念は学校と地域の関係を問う上でいかなる意義を持ちうるのか、なぜ教育経営研究者がこの概念にこだわるのか、そのことをも解明しておく必要があるものと考ええる。

現在、わが国の教育は大きな転換点を迎えつつある。東日本大震災はその転換点の象徴的現れであったと考えるが、そうではなくとも、わが国の将来像と教育の方針は無関係ではありえない。日本国民はいかなる将来像を描き、その将来像に向かっていかなる教育方針を立て、どのように実践していくのかが問われているのではないか。

本課題研究はその一隅を照らすという気概を持って、日本の教育再生の基点ともいえるべき「地域」に焦点を当て、学校と地域の関係性を問い直したいと考える。

提案者：大林正史（鳴門教育大学）

芝田雅彦（大阪府松原市立松原第七中学校校長）

コーディネーター：岩永定（熊本大学）

仲田康一（浜松大学）

課題研究Ⅱ

2F 第2会議室

9月1日(日) 13:00~16:00

超高齢社会における高齢者（シニア）の生涯学習の現状と課題

超高齢社会において、高齢者（シニア）の「社会参画」や「自立」の促進を図る上で、果たすべき生涯学習の役割等について研究協議する。

1. 概要

『超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会』設置要綱（2011年9月7日 生涯学習政策局長決定）によると、超高齢社会の到来を迎え、医療・社会保障費の増大、地域社会の活力の低下、単身老人世帯の増加に伴う高齢者の孤立化等の問題が顕在化しつつあり、このような中で、学び（生涯学習）を通じて高齢者が地域社会の様々な課題解決に参画し、あるいは社会の絆作りに積極的に参加することは、とりもなおさず、高齢社会の抱える課題解決に資するものであると指摘されている。本課題研究では、こうした状況に鑑み、超高齢社会において、高齢者（シニア）の「社会参画」や「自立」の促進を図る上で、果たすべき生涯学習の役割等について研究協議する。

まず、2012年3月に「超高齢社会における生涯学習の在り方に関する検討会」によって示された『超高齢社会における生涯学習の在り方について』（報告）を中心とする文部科学省における高齢者（シニア）の生涯学習振興施策の考え方や方向性・課題について、文部科学省生涯学習政策局社会教育課専門官（環境・高齢者担当）の合田 遼氏から基調講演をいただく。続いて、自治体の取り組み事例として東京都江戸川区の「江戸川総合人生大学の取り組み」（お茶の水女子大学・三輪建二会員）を、大学と連携しながら民間企業が大きくコミットしている取り組み事例として「岐阜大学・十六銀行産学連携プロジェクト・くるるセミナーの取り組み」（岐阜大学・益川浩一会員）を取り上げ、その現状と課題を確認するとともに、こうした高齢者（シニア）の学び（生涯学習）を進める上での方法論として「ライフレビュー」に着目した取り組み事例である仙台市における「高齢者を対象とした『ライフレビュー』講座の取り組み」（東北大学・石井山竜平会員）を報告する。

2. 報告者

①合田遼（文部科学省生涯学習政策局社会教育課・専門官（環境・高齢者担当））：「文部科学省における高齢者（シニア）の生涯学習振興施策の方向性と課題－『超高齢社会における生涯学習の在り方について』を中心に－

②三輪建二（お茶の水女子大学）：「江戸川総合人生大学の取り組み」（自治体の取り組み事例の報告）

③益川浩一（岐阜大学）：「岐阜大学・十六銀行産学連携プロジェクト・くるるセミナーの取り組み」（産学連携の取り組み事例の報告）

④石井山竜平（東北大学）：「高齢者を対象とした『ライフレビュー』講座の取り組み」（高齢者講座の方法論の検討）

司会：坪内一（横浜市立中央図書館）

コーディネーター：益川浩一（岐阜大学）

大会実行委員会

委員長 赤尾 勝己 (関西大学)

事務局長 若槻 健 (関西大学)

実行委員 臼井 智美 (大阪教育大学)

実行委員 柏木 智子 (大阪国際大学)

実行委員 大野 順子 (関西大学大学院)

事務局

関西大学 文学部 教育文化専修

若槻研究室内

日本学習社会学会第10回大会実行委員会事務局

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

TEL 06-6368-1121 (大代表)

06-6368-1111 の後、音声ガイダンスに従い 5157 (若槻研究室)

E-mail : lskansai.u@gmail.com

大会当日の連絡先

TEL 090-3943-1616 (若槻)